



Title	<研究ノート>主権在学について
Author(s)	園, 信太郎
Citation	経済學研究, 62(2), 87-88
Issue Date	2013-01-17
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/51733">http://hdl.handle.net/2115/51733</a>
Type	bulletin (article)
File Information	ES_62(2)_087.pdf



[Instructions for use](#)

<研究ノート>

# 主権在学について

園 信太郎

## 1. はじめに

この夏(2012年8月16日(木))で、北大に赴任して28年となる。北大出身ではないが、北大(北海道大学)に深い愛着を持つに至っている。そこでささやかなる極論を述べて諸賢の批判を期待し、北大の学問の益益の繁栄を願うのである。

## 2. 主権の掌握

この「主権」とは「高等教育を主導する権限」とも言うべきもので、進行している高等教育の空洞化を何とか防ぎとめるための要であり、「在学」とは、この「主権」を北大が掌握することに他ならない。高等教育の初期は高校であり、高校(高等学校)は高等教育の涵養の成否を事実上握っている。

## 3. 理, 文にわけない

高校において理科と文科に学徒をわけるとは、高等教育の実質を失わせることとなる。高等教育の初期において理, 文の二分法を採用するのは異様であり、学徒の学問は荒廃する。

この際北大は、ぜひとも「入試」から「資格試験」へと切り替えるべきである。高等教育の基本を修得していることを全般的に試してみることによって、「資格試験」で例えば77.5%以上を取得していれば、入学の資格があると判定するのである。その際、理, 文にはわけないことが重要である。これによって高校での「区別」を排除するのである。

## 4. ぶれない教育

「資格試験」の出題の範囲は、北大が決める。行政や世間のきままによって学問がぶれたりしないようにするのである。例えば、複素平面(Gauss平面)とその上の幾何学は必修とすべきだが、それを正に出題することを告知しておくのである。方程式 $z^2 = -1$ の内訳がわからないままで高校を「修了」してしまうことを何とか防ぐのである。もちろん $e^{\pi i}$ に関するEulerの公式もベキ級数展開を使って教えておく。

## 5. 受験資格

「資格試験」の受験資格は「義務教育の修了」のみとする。これによって鷗外タイプの早熟も忠敬タイプの晩成も共にすくいあげるのである。

## 6. 理, 文ではなく理, 経, 文

大学入学後の二年間は、学問の基本である「真理の探究」とはいかなる営みなのかを、数学などの基礎科学を通してとにかくじっくりと学ぶべきである。

学生たちは二年次から三年次に移る際に、理, 経, 文に大別される。これはいわゆる進学振り分けだが、この「経」とは、広い意味での経済学であり、統計学、経営学、金融工学、会計学などを含む。なお、Nobel経済学賞を視れば了解されるように、「経」を「文」に含ませることはもはや不可能である。

## 7. 英語の位置づけ

英語は語学系から分離して、農、工、医の三大実学に並立させて「英語」とする。つまり、「英」を実学として教えるのである。もちろん大学四年間を通して学生にはこの「英」と、じっくりとつきあってもらう。実学無境、実学に国境などない。

## 8. 日本語の位置づけ

国語としての日本語は各自が一生を通して磨練して行くべきだが、自国の文化を鍛え上げようとしないう民族が、世界にまともな貢献をしたためしなどないから、やはり日本語の教育は懇切丁寧であって欲しい。

留学生が日本語を学ぶことは重要である。辛口の日本批判を日本語で展開できる知日派を持続的に養成して行くことは国家戦略上も重要であるだろう。日本語が内包する底知れぬ美については言うまでもない。

## 9. 地球学

大学の一、二年次に「地球学」を必修すべきである。エコロジー、世界経済、地理、地学、そして政治といった、地球規模の総覧を行うべきである。

テクノロジーの進歩に伴って地球は一個の

「島国」と成りつつある。この極東の島国の感性及び知見は世界に十分に貢献し得る。

## 10. 「実験島」としての北海道

以上で述べたことをこの北海道で試してみるのである。つまり北海道を一つの「実験島」とするのである。これは道州制に向けての一個のささやかなる実験である。

道州制によってこの国は連合国家となる。つまり合州国となるのだが、北大はその先覚者となるのである。

## 11. 補遺—数学教育について—

学徒の本務は「真理の探究」であり、やはり数学は重要である。どこの大学であれ数学科の出身者には共通一個の志がある。それは、「数学が愛される風土」を涵養するように努めるということである。数学教育の責任は重い、「数学への愛」を育む教育であって欲しい。また、数学を担当できる教員の絶対数を増大させて、一、二年次での数学を豊かなものとすることも重要であるだろう。

2012年3月21日(水)、  
北大キャンパスの一角にて。